



# まち歩きマップ ー歩くと見える船小屋の歴史ー

ふなごや

この地でぶくぶくと湧き出す水は、その上を飛ぶ雀が墜死(ついし)したことから、雀地獄と呼ばれます。しかし、高濃度の炭酸と鉄分を多く含む「薬湯」であることが知られるようになると、浴場が開発されました。夏目漱石も夫人と訪れ、「ひやひやと雲が来るなり温泉(ゆ)の二階」という句を残します。

第二次大戦を経て、昭和天皇が戦後巡行として、1949年に九州を訪れた際は、地元の熱烈な歓迎を受け、樋口軒にお泊りになりました。歌人・柳原白蓮も、樋口軒を愛用されていたそうです。(※種田山頭火は羽犬塚までは訪れましたが、船小屋への立ち寄りはありません。)

日露戦争中には、陸軍指定の療養所に指定され、船小屋は活況に溢れます。春は桜、初夏はホテルや鮎が楽しめるということもあって、1914年には20軒の旅館が立ち並びました。旅の思い出を残そうと、写真館も流行りました。鹿田写真館は大正末期からその姿を残す、貴重な建物です。



※2025年製作

作成/ボランティアガイド ちくご♡恋のくに案内人の会 事務局/筑後市観光協会

ちくご♡恋のくに案内人の会では、ガイドのご要望にお応えします。詳しくは →



筑後船小屋 公園の宿